

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 01

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	01 市民の主体的な学習や活動を支援するとともに、学習の成果を地域社会に活かすことのできる人づくり・しくみづくりを進めます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
生涯学習推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)		H26 16,795 人	16,795	16,034	16,795	18,273	**	**	100%
あまなびサポートデスク問合せ件数(1館あたりの1月平均)		H26 2.5 件	30	**	2.5	37.6	**	**	100%
地域活動の中で、生涯学習の成果が活かされていると感じる市民の割合		H23 5.9 %	6.4	4.4	7.2	7.5	**	**	100%
図書の貸出し冊数		H24 149万 冊	150万	140万	137万	153万	**	**	100%
図書館行事への参加人数		H24 7,429 人	7,800	7,065	7,764	9,594	**	**	100%

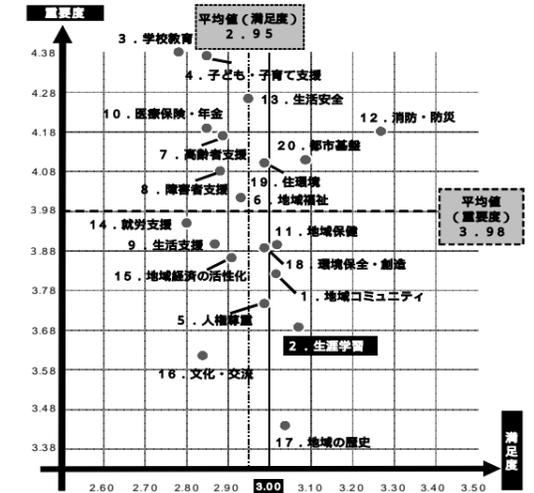
4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	生涯学習活動の支援と成果の活用・人材育成の推進
総合戦略	
【多様な学習機会の提供と情報発信による市民参加の促進、関係機関との連携による社会教育施設の有効活用等】 尼崎学びのサポート事業 「あまなびサポートデスク」は、窓口の周知や増設により問い合わせ件数が増加し、目標値を達成した。生涯学習情報誌「あまなび」において、自身の学びを地域や社会教育施設等で活かしている方々を掲載し、PRした。学びに関する周知や市民参加の促進等のため、ブログ「まなびの宝石箱」を新設し、年間105件更新を行った。(目標指標) 図書館行事事業等 近年の読書離れから図書の貸出し冊数については減少傾向であったが、児童室の開室時間延長及び貸出上限冊数の拡大に加えて、市内企業等からの寄贈やブックオーナーズ制度を活用する中、前年度比で16万冊を上回り目標値を達成できた。また、新たな子ども向け行事や成人層対象の特別講座などを実施し、展示や特設コーナーを強化することで行事参加者数も前年度比で1,830人増加した。(目標指標) 生涯学習推進事業等 学びを通して地域での仲間づくりや地域課題に気づき、課題解決に向けた動きを促すことを目的に、地域、学校に出向き、様々な講座等を実施する「地域お出かけ事業」では、受講者がグループをつくり活動を継続するなどの成果も見られたが、課題解決に向けた活動等に結び付くには不十分であった。平成28年度実施の「生き方探究キャリア教育支援事業」を平成27年度に試行的に実施したところ、児童生徒が協力事業者による講義や実習等を通して学ぶことや働くこと、自分らしい生き方について考える機会を提供できた。学ぶ意欲の向上やわがまちへの愛着心の育成に効果が期待できる事業であることから、公民館においては、今後もこうした事業の充実を図るとともに、地域に内在する課題に気づきを促す体験の提供や、課題の発見及び解決につなげていくための事業の企画立案、受講者の行動を促すコーディネートを一層進めていく必要がある。(目標指標)	
【市民・ボランティアとの協働と学習グループ等の活動支援】 図書館行事事業等 ボランティアとの協働の取組として読み聞かせを107回、対面朗読を281回実施し、公民館図書室の書架整理を行った。 生涯学習推進事業 公民館では、市民企画委員とともに企画立案し実施している講座などを通して、市民目線で新たな課題の発見や解決法を見出すことを促し、市民が「協働によるまちづくり」に参画するきっかけをつくっている。また、市民が日本語ボランティア講師を務める「日本語よみかき学級」は市内在住・在勤の外国人が地域社会に参加できる一助となっている。(目標指標)	
【学習の成果を発表する機会やボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かせるようしくみづくり】 学社連携推進事業 「学校図書ボランティア育成事業」は参加希望校が5校増え、研修内容が実務に即し有意義なものとなった。学校を支援するため「特別支援ボランティア養成事業」を新設し学社連携の取組につながった。60名の参加があり、24名が実働に至った。また、「地域による土曜学習支援モデル事業」は、3校での実施をサポートし、地域の方々が活躍できる機会の創出や学習の成果を地域づくりに活かす取組として進めた。	
【学習と交流を通じたリーダーの発掘・ボランティアの養成等を通じ、市民主体の活動を支える人材育成等】 学社連携推進事業 「学校支援活動コーディネーターモデル事業」を実施するため、コーディネーター等市民主体の活動を支える人材の発掘と学校・地域との調整に努めた。 生涯学習推進事業等 「サッカーロボットプログラム講座事業」は、開催日数と受講料の見直しを行ったことで、参加者数の増加(1回あたり10人の増)につながったが、使用する機材の老朽化など、運用面での課題が生じてきており、事業の持続可能性の面から、今後のあり方を検討する必要がある。また、ワークショップ等の手法により実施してきた「地域コーディネーター育成講座」については、様々な地域課題等に焦点をあてた「地域・現代学講座」と一体的に実施していく方がより効果が高まることから、実施手法を見直すこととした。(目標指標)	

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり				
重要度	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	18.8%	38.8%	36.4%	5.0%	1.0%
26年度	第18位 / 20施策	5点満点中	3.69点(平均3.98点)		
25年度	第17位 / 20施策	5点満点中	3.70点(平均3.99点)		
満足度	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	3.7%	16.3%	65.4%	12.6%	2.0%
26年度	第3位 / 20施策	5点満点中	3.07点(平均2.95点)		
25年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.05点(平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
・複雑かつ多様な社会課題に対応するため、行政内部の連携を一層密にするとともに、職員は地域住民やNPO、企業など多様な地域主体とともに問題解決に取り組む必要がある。 ・地域と学校が連携・協働する体制(地域学校協働本部)づくりについては、学校支援コーディネーターモデル事業の実施校の目標を含めた考え方を定め、できることから実施する。こうした地域の活動に対するコーディネーター機能の強化等については、地域振興体制を再構築する中で、「みんなの尼崎大学」など学びの場の整理と合わせて検討を行う。 ・ブログ上での情報発信や「あまなびサポートデスク」でのレファレンス機能については、「みんなの尼崎大学」開校に向けて更に発展させていく。 ・図書館については、種々の取組の結果、近年低下傾向であった貸出し冊数が増加に転じるなど、意欲的な事業改革の成果が現れている。また、中央図書館については城内地区の一角として、更なる取組が期待される。今後も利用者のニーズ把握を十分にを行うとともに、公民館図書館の日曜日の貸出を実施するなど、更なる市民サービス向上に努めていく。 施策の二次評価は「重点化」とし、平成29年度の予算等を重点配分した上で施策を推進する。
総合評価
重点化 転換調整 現行継続

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 02

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	02 健康の保持・増進を図るため、気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合		H26 63.3	% 66.8	71.0	63.3	62.3	**	**	0%
誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数		H24 65,499	人 68,774	80,257	66,980	74,478	**	**	100%
生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数		H24 16,708	人 17,933	14,784	14,294	13,135	**	**	0%
学校開放利用者数		H24 735,935	人 772,731	677,323	689,578	690,150	**	**	0%
地区体育館等利用者数		H24 414,591	人 435,320	407,715	405,533	412,669	**	**	0%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり
------	---------------------------------------

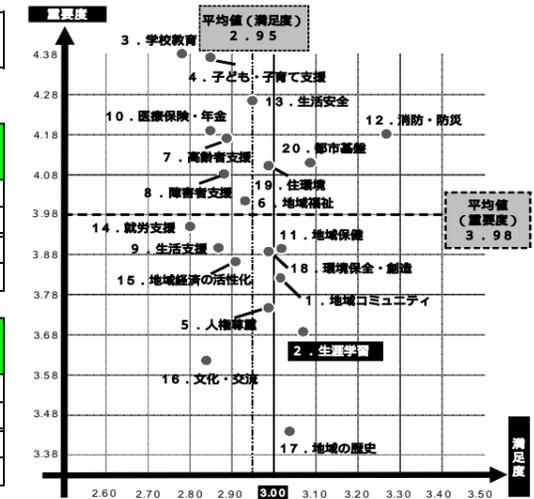
重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	18.8%	38.8%	36.4%	5.0%	1.0%
26年度	第18位 / 20施策	5点満点中	3.69点 (平均3.98点)		
25年度	第17位 / 20施策	5点満点中	4.07点 (平均4.39点)		

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	3.7%	16.3%	65.4%	12.6%	2.0%
26年度	第3位 / 20施策	5点満点中	3.07点 (平均2.95点)		
25年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.05点 (平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)		
行政が取り組んでいくこと	運動やスポーツによる市民の健康づくり	総合戦略
<p>【個々の生活リズムに合わせて気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくりや、情報提供等】 健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合を増やす取組 「尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)」の策定に当たり、前期目標を達成できなかった「子ども」の体力向上、相対的にスポーツ実施率が低い「働く世代」や「女性」のスポーツ実施率向上、本市スポーツ振興事業やスポーツ施設に関する情報発信の強化などが課題となっていた。そこで、同計画では、事業を施策体系別に再整理するとともに、「スポーツのまち尼崎を目指して」を目標に掲げ、その取組の指標として、「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」を設定することで、目指すべき姿を明確化した。後期計画策定が平成26年度末となったことから、平成27年度においては全体として、スポーツ実施率の増加に向けて取り組んだものの、スポーツ実施率は微減となった。(目標指標)</p> <p>「スポーツのまち尼崎」促進事業の誘致大会及び市民スポーツ大会事業 指標 では、平成27年度は平成26年度を上回る実績となり、目標値も達成できた。 このうち「スポーツのまち尼崎」促進事業では、誘致大会は平成26年度に10大会あったものが平成27年度は7大会となったため、観戦者数は10%減となったが、1大会あたりの平均観戦者数で見れば27%の大幅増となった。これまで、平成25年度から、有名選手のサイン会などの取組を行ったことなどから、少子高齢化、人口減少といった条件下でも観客動員数を増加させることができたものと考えている。 市民スポーツ大会事業の各種大会については、市報や市ホームページ、平成26年度に新たに開設したフェイスブック版・ホームページ版の「あまスポ」も活用することで、大会関係者だけでなく、一般市民にも広く広報しており、市民スポーツ祭、市長旗大会、マスターズ大会のいずれも昨年度は概ね前年度以上の参加者数となったほか、いずれも目標値を上回る実績を達成できた。(目標指標)</p> <p>生涯スポーツ・レクリエーション事業(生涯スポーツサービスシステム事業及び子どもたちの体力づくりモデル事業) 指標 では、平成27年度実績は平成26年度を下回った。その主たる要因は、地区体育館におけるグラウンド・ゴルフ及びベタンの用具貸出利用人数の減であり、前年度と比較し半減している。その一方で、市内8公園でスポーツ推進委員がグラウンド・ゴルフ及びベタンク競技の実技指導を行う「さわやか地域スポーツ活動」は、スポーツ推進委員の活躍により、平成24年度以降参加者が増加傾向にある。こういった状況を踏まえ、当該貸出事業の周知や事業の転換など、より生涯スポーツの推進に寄与する方策を検討する。 スポーツ振興事業団がこどもクラブに指導員を派遣する「子どもたちの体力づくりモデル事業」は、平成27年度の参加人数は前年度を上回ったものの、いまだ基準値である平成24年度実績を下回っており、平成26年度の新体力テストにおいても兵庫県平均値には達していない。そこで、当該事業は平成27年度をもって終了し、平成28年度以降は、親子スポーツの取組等への転換により、子どもたちの体力向上を期することとした。(目標指標)</p> <p>学校開放事業 市民のスポーツ活動の拠点として、市立小・中学校の体育館や運動場などのスポーツ施設を開放している。近年は耐震化工事による施設閉鎖や小・中学校の統合の影響から、平成24年度に比べると利用者数は減少しているが、1校あたりの利用者数で見ると、平成26年度は微増であったが、平成27年度はほぼ横ばいとなっている。(目標指標)</p> <p>地区体育館等施設運営事業 「健康づくり教室」や「トレーニング指導」などの各種事業を実施することにより、スポーツへの関心と参加意欲を高め、健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図っている。施設の老朽化などの課題を抱えつつも、スポーツ振興事業団が積極的にPRを行うなどの取組から、平成27年度は、利用者数は全体では微増に転じている。(目標指標)</p> <p>指定管理者であるスポーツ振興事業団は、毎年新たなスポーツプログラムを開講するなど、積極的な事業展開を図っている。地区体育館の一般開放を行うスポーツプラザ事業は、ここ数年利用者が増加傾向にあるとともに、健康づくり教室も、市民ニーズに応じた見直し等により、平成26年度以降、ほぼ前年度並みを維持しているなど、住民の心身の健全な発達と、明るく豊かな地域社会の発展に寄与している。また、障がい者スポーツについて、障がいをお持ちの方を対象としたスポーツプラザ事業をはじめ、サウンドテニスなどのスポーツ教室を実施し、障がい者が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努め、その充実を図っているほか、子ども子育て支援の取組として、就学前の幼児や小学生を対象とした教室を開催するなど、これらの分野について特に取組を強化した。</p>		

次年度に向けた取組方針 (平成29年度予定を記載。必要に応じて平成28年度も含む。)	
<p>【個々の生活リズムに合わせて気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくりや、情報提供等】 平成27年度から「尼崎市スポーツ推進計画」の後期5か年がスタートしており、平成28年度においては「親子スポーツ」及び誰でも取り組みやすい運動・スポーツとして、ウォーキングや新たに開発する体操・ダンスの普及の取組を行う中で、重点的に子どもや働く世代、女性のスポーツ実施率向上に取り組むこととしている。 平成29年度においては、この取組をさらに推進するとともに、障がい者スポーツや、スポーツクラブ21などの団体にに向けた取組など、同計画に掲げる施策に順次取り組んでいくことにより、「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」という数値目標を達成し、ひいては「スポーツのまち尼崎」の実現という目標に向けて、取り組んでいく。 「スポーツのまち尼崎」促進事業の認知度を高め、観戦者の増加を図るとともに、事業全体での観客数の増加を図るべく、新たな大会を誘致することにより、事業全体としても実績の増加に向け取り組んでいく。 生涯スポーツ・レクリエーション事業の市報や市ホームページ等での広報、スポーツ推進委員の活動拡大に取り組むことにより、事業の認知度を高め、参加者を増やし、より多くの市民にスポーツやレクリエーション活動の機会と場を提供していく。 学校開放事業については、利用者が固定する傾向にあり新規参加者が難しいなどの課題がある。今後、耐震化工事も終息するため、地域スポーツの拠点として、できるだけ多くの市民に御利用いただけるよう、利用者の拡大のための工夫を行っていく。なお、将来的には利用団体等で運営できるよう、体制の整備などの検討を進めていくこととしており、杭瀬小学校において、平成29年1月からスポーツクラブ21杭瀬による試行を開始し、地域への運営の移行の具体化の手法を探ることとしている。</p>	<p>新規・拡充の提案につながる項目 【気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり】 親子で参加できるスポーツ教室の拡充など、働く世代や女性が増加しやすい事業について、スポーツ振興事業団と連携しながら取り組んでいく。</p>
<p>改革・改善の提案につながる項目</p>	

5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針		
<p>・生活習慣病や介護予防の観点からも市民の健康維持は引き続き重要な課題であることから、「尼崎市スポーツ推進計画」に基づき、より効果的な情報発信や事業実施手法を実践しながら、同計画の数値目標である「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」に向け取組を進めていく。</p> <p>・学校開放事業については、利用実態に即した効果的な運用に努めるとともに、地域に身近なスポーツの拠点として誰もが参加しやすい工夫を行い、利用者増にも努める。また、地域運営についても試行の結果を踏まえ、将来的に他の学校へ拡大できるよう、取組を進めていく。</p> <p>施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>		
総合評価		
重点化	転換調整	現行継続

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 03

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	03 生涯学習やスポーツ活動を通じて、生きがいづくりや地域での交流を促進していきます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
家庭・地域教育推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)		H26 18,471 人	18,471	17,791	18,471	19,224	**	**	100%
公民館まつり参加グループ数		H24 277 団体	277	281	260	283	**	**	100%
公民館登録グループ数(4/1現在)		H24 338 団体	338	340	338	337	**	**	0%
公民館夏休みオープンスクール受講者数		H27 649 人	649	**	**	649	**	**	100%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり
------	---------------------------------------

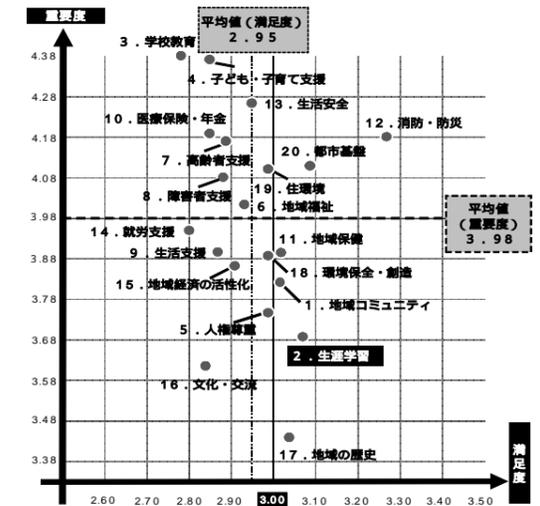
重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	18.8%	38.8%	36.4%	5.0%	1.0%
26年度	第18位 / 20施策	5点満点中	3.69点(平均3.98点)		
25年度	第17位 / 20施策	5点満点中	4.07点(平均4.39点)		

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	3.7%	16.3%	65.4%	12.6%	2.0%
26年度	第3位 / 20施策	5点満点中	3.07点(平均2.95点)		
25年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.91点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	市民の生きがいづくりや交流の推進
【歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充】 歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充 大庄公民館において実施した「村野藤吾記念事業」では、公民館建設時の設計図をもとに制作されたペーパークラフトの活用について、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加者から様々なアイデアが出され、地域資源を活用した学習につながった。また、文化財収蔵庫と田能資料館を訪れるバスツアーを青少年課との共催で実施し、定員を超える申し込みがあった。	
【誰もが生涯にわたって自由に学び、互いに高めあうことができるしくみづくり】 家庭・地域教育推進事業 家庭・地域教育推進事業の核となっている「子育て学習世代間交流事業」では、各公民館と各地区保健センターの保健師及び主任児童委員の方々とが連携し、地域のボランティアの協力を得ながら、地域ぐるみで子育てをサポートしていく体制づくりに努めており、平成27年度の参加者は延べ2,982人である。(目標指標) 公民館登録グループ等の育成と成果発表の場の提供等 公民館では、公民館グループ等の育成に取り組むなど、市民の自主的な組織的・継続的学習活動を支援している。また、各公民館で毎年開催している「公民館まつり」では、公民館グループ等の活動の成果を発表し、グループ相互の交流や地域住民との交流促進に寄与している。 また、平成27年度から実施した、子どもや親向け公開講座「公民館夏休みオープンスクール」では、公民館登録グループや公民館で活動するボランティアに講師となって教えるようコーディネートを行ったところ、絵画、ダンス、語学などの登録グループ等64グループで実現され、そのうち、受講者の参加があった48グループにおいて、子どもを含めた地域住民との交流が図られるとともに、自己の学びを地域に還元する機会を創出できた。(目標指標) 更に、児童生徒が地域の協力事業者から講義や実習等を通じて学ぶ「生き方探求キャリア教育支援事業」では、公民館職員が、地域、学校に出向き、人材を発掘し結び付け、新たな学びの環境を創出するといったコーディネート機能を発揮し、子どもを含めた地域住民同士の学びあいに効果を上げた。この他にも、登録グループを地域活動支援に結び付けることなどを推奨し、適宜、働きかけを行った。 なお、近年、登録グループ数が横ばいであり、活動グループが固定化している状況にあるため、受講者の学びの機運を高め、交流、グループ化の促進といった側面支援にも一層力を入れていく必要がある。(目標指標) 誰もが生涯にわたって自由に学び、それぞれがかかわりあいを持ちながら、互いに高めあうことができるしくみづくり 平成27年度は、旧梅香小学校敷地複合施設のあり方市民会議においてまとめられた「学びあい、支えあい、つながりを育み、活発で元気な地域づくりを図る拠点」づくりに向けて、設計を行った。 平成26年度に引き続き、「みんなの尼崎大学」について、社会教育分野の観点から参画し、関係部局とともに、基本コンセプトの検討を行うとともに、当該コンセプトを公民館事業の企画等の実務で活かせるよう、関係職員の意識高揚を図った。また、「みんなの尼崎大学」オープン会議においても開催等関係部局との連携を積極的に行い、職員の資質向上に向けた研修会「ファシリテーションの作法を学ぼう」を企画した。 「みんなのサマーセミナー」では、実行委員会構成メンバーとして他局とともに市民との協働の取組として積極的に参画した。	

次年度に向けた取組方針 (平成29年度予定を記載。必要に応じて平成28年度も含む。)
【歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充】 歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充に向けて新たな受講者の開拓に努めながら継続して推進していく。平成28年度に実施する「村野藤吾記念事業」は、前年度の実施内容を踏まえて、ワークショップを行う。 平成28年度は「あまらぶ歴史体験学習事業」として、社会教育施設をめぐるバスツアーや、親子で学ぶ体験講座を実施し、わがまちの歴史に対する関心を高め、郷土愛を醸成する。引き続き、小学生の社会科資料集「わたしたちの尼崎」に掲載されている歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充に向けて積極的に取り組んでいく。
【誰もが生涯にわたって自由に学び、互いに高めあうことができるしくみづくり】 市民交流の推進のみならず、地域で子育てを支援するしくみづくりに寄与する「家庭・地域教育推進事業」については、今後も、様々な主体の協力を得て、更に効果的な事業展開を図っていくこととし、平成28年度は、立花地区で子育て支援に関わっている各団体の絆を深め、地域の子育て支援に関する取組を一層進めていくことを目的に、学びの場の提供として「立花[りっぱな]子育てひろげようサミット」を開催する。 学びの成果を地域活動につなげていくため、平成28年度に引き続き、公民館グループの育成、講座修了生によるグループ化を支援するなど、公民館のコーディネート機能を強化していく。 旧梅香小学校敷地複合施設については、市民会議の意見を踏まえ、引き続き、関係部局と協議し、必要な取組を推進していく。
新規・拡充の提案につながる項目
改革・改善の提案につながる項目

5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
・子育てや子どもの学びに関する各種取組については、学びあいや地域の交流促進につながっており、地域で住民を支援する環境づくりに寄与している。
・市民の生きがいづくりや交流の推進の観点から、歴史や文化等の地域資源を活用した学習にも、引き続き取り組んでいく。
・地域における課題解決力向上を支援するとともに、地域に密着し、学びや保健福祉、防災などのあらゆる分野で地域や関係団体等をつなぐコーディネーター的役割を担う体制の整備等について、現在行っている地域振興センターのあり方等の検討の中で、併せて整理を行う。
施策の二次評価については「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。
総合評価
重点化
転換調整
現行継続